

塘研究室現地調査報告

8月13日に裏磐梯にて現地調査を実施しました。調査参加者は塘研究室4年生の佐藤椋一君と塘の2名で、佐藤君の卒業研究の調査（裏磐梯地域での蝶類のセンサス調査）で、今月予定している2回の調査の1回目でした（ニチレイ社有地で午前と午後に1回ずつ）。塘は今年度、株式会社ニチレイ社有地を中心とする桧原湖畔探勝路付近に生息する陸生昆虫を紹介するミニガイドブック作成を計画しています。佐藤君の調査に同行したのは、このガイドブックに使用する写真を撮ることと、クマ対策のためです。以下に観察した昆虫類の一部を紹介します（昆虫ではないものもありますが）。

毎月2回、ニチレイ社有地内で決まったルートで調査をさせて頂いているお陰で、何となく道ができてきました。ミンミンゼミが鳴く中、被写体を探しながら佐藤君の調査ルートを歩きました。先月の調査では満開だったヤマユリはすべて花が落ち、ヨツバヒヨドリも花はほぼ終わり、オトコエシ、キンミズヒキが目立ちました。訪花昆虫は少なく、蝶類のセンサスルートですが、ほとんど蝶類は見かけませんでした。バッタ類やキリギリス類は先月までは幼虫ばかりでしたが、今回は成虫が多く見られました。1の池ではクロイトトンボが、3の池ではアオアオイトトンボが多く、ギンヤンマなどのヤンマ類も見られましたが、先月まで見られたヨツボシトンボは姿を消し、マイコアカネ、アキアカネなどのアカネ類が増えました。3の池ではキトンボもすでに羽化していました（2の池付近はルートに含まれていないため、観察できず）。



1の池のヒルムシロ類



ウスイロコバントビケラ



ウスイロササキリのオス幼虫



セスジツユムシ



ツマグロバッタ（羽化直後？）



マイコアカネ